

平成 16 年 5 月 21 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 ア ズ ジ ェ ン ト  
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 杉 本 隆 洋  
( 登 録 銘 柄 コ ー ド 番 号 4 2 8 8 )  
問 合 せ 先  
取 締 役 経 営 企 画 本 部 長 鈴 木 眞 治  
T E L ( 0 3 ) 5 6 4 3 - 2 5 8 1

## 中期事業計画策定に関するお知らせ

当社は、この度平成 17 年 3 月期をスタートとする中期事業計画（平成 17 年 3 月期～平成 19 年 3 月期）を策定しましたので、その概要をご報告申し上げます。

### 1. 基本方針

当社は従来、ネットワークセキュリティ関連商品の輸入販売及びサービスの提供を中心とした事業展開を行ってまいりましたが、加えて SIP RTC（ 1 ）関連事業や M@gicPolicy シリーズ（ 2 ）等の自社開発商品の立上げを加速させること、またグループ会社との連携によりアジア大洋地区市場への展開により、収益の拡大と構造転換を図ります。

### 2. 中期経営目標（連結）

（単位：百万円）

	平成 17 年 3 月 ( 1 年目計画 )	平成 18 年 3 月 ( 2 年目計画 )	平成 19 年 3 月 ( 3 年目計画 )
売上高	3,600	5,200	7,000
経常利益	500	300	1,000
当期利益	400	200	560

#### 初年度（平成 17 年 3 月期）

SIP RTC スイッチ事業立上げを加速するための基礎固めの年と位置付け、SIP RTC アプリケーション商品群の上期における投入、集中的な市場開拓費用投下、国内外の販売体制確立を実行します。また、M@gicPolicy シリーズの新商品、CoSMO および Quick の販売を開始します。

損益的には、上述の SIP RTC 市場開拓費、および減損会計導入による M@gicPolicy シリーズ新商品発売後の旧型商品の評価損等によりマイナスとなる見通しです。

#### 2 年目（平成 18 年 3 月期）

売上高拡大により黒字転換を予定しています。

#### 3 年目（平成 19 年 3 月期）

自社開発商品売上高構成比を 50% 超まで引き上げ利益率の改善を図り、売上高 7,000 百万円、経常利益 1,000 百万円の達成を目指します。

( 1 ) SIP RTC

SIP : Session Initiation Protocol の略

IP 電話の活性化に伴い、IP 通信と親和性の高い通信規格として普及拡大。SIP は、過去のインターネット普及期における SMTP (電子メール)、HTTP (Web) に続き、インターネット上の第三のキラープロトコルといわれている。

RTC : Real Time Collaboration の略

SIP をコアテクノロジーにインスタントメッセージング、音声、動画等を統合し提供する次世代コミュニケーションの概念及びテクノロジーのこと。

( 2 ) M@gicPolicy シリーズ

セキュリティ・ポリシー策定および運用支援ツール

3. 自社開発商品による 2 つの事業

SIP RTC 関連事業

<戦略>

平成 17 年 3 月期中に当該事業立上げのための基盤を整え、次年度以降の成長を確実なものとする

- (a) SIP RTC アプリケーション商品群の上期における投入、
- (b) 集中的な販売促進費を先行投下し、SIP の認知と利用の促進による SIP 市場の創造
- (c) アジア大洋地区での販売およびサポート体制の確立

<背景>

過去 10 年間におけるインターネットの普及スピードの速さは驚くべきものでした。事実、我国における E-mail アドレスの普及スピードと量は、電話番号の普及スピードと量をはるかに凌駕しています。今日 E-mail や Web は日常的に使用されており、これがインターネット増殖のトリガーとなっているのも事実です。

次の 10 年はインターネット上の SIP 通信がコミュニケーション革命を起こしていきます。E-mail が電話と共存しながら用途に応じて棲み分けられて利用されている様に、SIP によるリアルタイムな音声、画像、状態表示、アプリケーション交換が、電話や E-mail がカバーできなかった新しいコミュニケーション手段( IT 技術+IP コミュニケーション )として利用されていきます。このような SIP 通信は今日の IP 電話とは比べるべくもなく高い生産性と可能性を利用者にもたらしめます。しかも E-mail と同じように出張先や旅行先からもインターネットに接続できれば、通信料を気にすることなくコミュニケーションが取れるのです。E-mail はリアルタイム性を必要としないコミュニケーション手段ですが、SIP を利用したマルチストリーミング通信 (音声+画像+状態表示+アプリケーションなどの複数搬送の 1 回限りの通信) では、リアルタイム性を損なうことなく一定品質以上で通信できなければなりません。その為にはインターネットの不都合な点である品質とセキュリティを補う技術が不可欠となってきます。

当社の米国子会社 Applico Security, Inc.が開発した SIP RTC スイッチは、SIP 対応、通信品質向上及び接続性の確保並びにセキュリティを確保する機能が実装されているため、IP 通信の利用を音声のみにとどめず、動画やアプリケーション、状態表示利用へ拡大することにより、情報伝達の量、質を劇的に改善することを可能とし、ビジネス効率を高める環境を提供します。

また、通信品質向上とセキュリティ機能により、直接インターネットへ接続する通信でもビジネスに支障のない環境を提供します。つまり、新たな IP 専用線の敷設は必要なく、現在データ通

信に使用している IP 回線をそのまま利用できることとなります。また、インターネット接続口があれば世界中どこからでも SIP 通信が可能となります。

音声、動画、アプリケーション等の同時利用による通信及びインターネットへの直接接続によるオープンアクセスの実現により、従来のビジネス手法/モデルをも変革するポテンシャルをもった商品です。SIP RTC スイッチの利用により、単純な音声や動画による通信のみならず、教育、医療、娯楽などの分野での新たな事業が生み出されることが期待されます。

## セキュリティ・ポリシー事業

### <戦略>

- (a) 当社自社開発のセキュリティ・ポリシー策定および運用支援ツール「M@gicPolicyシリーズ」の新商品「M@gicPolicy CoSMO」,「M@gicPolicy QUICK」の発売
- (b) プロフェッショナルツールとしての「M@gicPolicy CoSMO」による「ISMS 認証取得を志す企業」「ISMS コンサルティング企業」のみならず、「ISMS 認証取得済み企業」への販売拡大
- (c) 運用が容易、かつ低価格な「M@gicPolicy Quick」による対象ユーザの拡大
- (d) M@gicPolicy シリーズの継続的改良

### <背景>

セキュリティ・ポリシー策定支援サービスに始まる総合的なセキュリティ対策を提供することにより、当社はセキュリティ市場において他社との差別化を図ることが可能になると考えます。そのために当社は当社が培ってきたセキュリティ・ポリシー策定のノウハウをパッケージ化し、かつ策定後、情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)を効率的に運用するための支援ツール「M@gicPolicy」を自社開発し販売を行っております。

昨今、システム障害、不正アクセス、個人情報の漏洩など情報セキュリティに関わる事件・事故による被害が多発しています。こうした中で企業は、様々なリスクから重要な情報資産を保護するため、人的・技術的・物理的観点から組織のセキュリティ方針を取り入れたマネジメントシステムである情報セキュリティマネジメントシステム (ISMS) を構築する必要があります。

ISMS を有効に機能させるには、セキュリティ・ポリシーを策定し、ポリシーに基づき計画(Plan) 実施 (Do) 点検 (Check) 改善 (Act) のマネジメントサイクルを運用していく必要があります。ISMS を構築しても、常にセキュリティが万全であるというわけではなく、企業のビジネス戦略や世情の変化、またセキュリティに携わる事故等に応じて、見直し、修正、改善を加えていかなければなりません。

しかしながら、現状は認証取得することに重点が置かれすぎ、点検、改善を効率よく行うことができませんでした。また、認証取得企業からも、社内のセキュリティ・ポリシーの運用状況など PDCA を効率よく把握することができるツールが求められていました。当該新シリーズはこの市場ニーズに応えるものとなっております。

以上